

第3章 新規追加種の解説、カテゴリー変更・除外の理由

※本リストで使用する種の科名、属名、和名、学名は、原則として国土交通省水管理・国土保全局水情報国土データ管理センターによる「河川水辺の国勢調査のための生物リスト R3年度版（2021）」に準拠します。

維管束植物の新規追加種

No.	科名	和名	2022 カテゴリー	カテゴリー追加理由
1	ラン科	アオテンマ	EX	生育が確認されたが盗掘され、以降確認できないため
2	ミツガシワ科	ミツガシワ	EN	生育が確認されたが希少性が高く、盗掘の可能性があるため
3	コケシノブ科	コケシノブ	VU	生育が確認されたが、生育環境が脆弱なため
4	ススキノキ科	ユウスゲ	VU	生育が確認されたが、生育環境が脆弱なため
5	イネ科	ヒエガエリ	VU	生育が確認されたが、生育環境が脆弱なため
6	ツツジ科	コヨウラクツツジ	VU	生育が確認されたが、生育環境が脆弱なため
7	オオバコ科	ヒヨクソウ	VU	生育が確認されたが、生育環境が脆弱なため
8	ユリ科	ホソバナアマナ	NT	生育が確認されているが、生育環境の悪化が懸念されるため
9	ラン科	ササバギラン	NT	生育が確認されているが、生育環境の悪化が懸念されるため
10	カヤツリグサ科	アオガヤツリ	NT	生育が確認されているが、生育環境の悪化が懸念されるため
11	バラ科	サナギイチゴ	NT	生育が確認されているが、生育環境の悪化が懸念されるため
12	ツツジ科	ウメガサソウ	NT	生育が確認されているが、生育環境の悪化が懸念されるため
13	キク科	キクタニギク	NT	生育が確認されているが、生育環境の悪化が懸念されるため

市内絶滅 (EX)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

アオテンマ

【青天麻】
*Gastrodia elata f. viridis*ラン科
オニノヤガラ属

種の特徴

オニノヤガラの^{ひんしゅ}品種で、花を含めた植物体全体が淡い緑色の^{きんじゅうぞくえいよう}個体です。菌従属^{こうごうせい}栄養植物で光合成は行わず、菌類に寄生して栄養を吸収しています。茎は直立し、高さは40～100cm。花期は6～7月で、茎の先端に20～50個の壺状の花を^{そうじょう}総状に咲かせます。

生育環境

山地の樹林下や湿原に自生しますが、森林公園などの樹木の下などでも稀に生育します。

国内や県内の分布

母種のアオテンマは北海道から九州に分布し、県内では全県に分布しますが稀です。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックのモニタリングで、2012年に桑原地区で川沿いに咲く1個体を確認しましたが、駐車場脇の目につきやすい場所であったため、その後盗掘されて個体は消滅し、以後は見つかっていません。

特記事項

同じアオテンマの品種で、花、茎ともに黄白色の個体はシロテンマと呼ばれ、千曲市でも2010年に森地区で1個体を確認したため絶滅危惧 I A 類 (CR) に指定しましたが、その後は確認できないため、今回のレッドリストの改訂により市内絶滅 (EX) にカテゴリーを変更しました。なお、環境省版レッドリスト(2020)でシロテンマは絶滅危惧 I A 類 (CR) に該当します。菌従属栄養植物である多くのラン科植物は盗掘しても育てることは極めて困難です。

絶滅危惧 I B 類 (EN)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ミツガシワ

【三槲】
*Menyanthes trifoliata*ミツガシワ科
ミツガシワ属

種の特徴

多年生の水草で、^{こんけい}根茎は泥中を横に長く伸びます。葉は3枚の^{しょうよう}小葉で質は厚く、^{こんせいよう}根生葉の間から30cmほどの^{かけい}花茎を伸ばして先端に白色から^{たんししよく}淡紫色の花を^{そうじょう}総状に咲かせます。花(花冠)は径1～1.5cmで、^{れつぺん}裂片の内側には長い毛があります。

生育環境

低山帯から亜高山帯の湿原のほか、池沼の岸辺近くの浅い水中に生育します。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布し、県内では北部と中部の低山帯の池沼に生育します。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では、生育情報が寄せられたゴルフ場内の^{しゅうけいち}修景池を調査しましたが発見できず、2013年のモニタリング調査で八幡地区の池沼で生育を確認しました。市内の生育地は1箇所のみですが、生育数は徐々に増加しています。盗掘や池沼開発、水質汚染が絶滅危惧の要因と考えられます。

特記事項

氷河期の^{いそん}遺存植物と言われ、また、地球上では北半球に分布しているため「^{きまくちしゅうへん}極地周辺植物」とも呼ばれています。和名の由来は3枚の小葉がカシワ(柏)の葉に似ているためと言われています。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

コケシノブ

【苔忍】
*Hymenophyllum wrightii*コケシノブ科
コケシノブ属

種の特徴

常緑性のシダで、葉の長さは3～5cm、葉は暗緑色で裂片は軸に狭い角度でつきます。近似種のホソバコケシノブに似ますが、裂片の幅はやや広いです。包膜は二弁状で、葉は1層の細胞層で気孔は発達していません。コケを思わせるシダです。

生育環境

低山帯から亜高山帯の樹林下の岩上や樹上に着生し、特に針葉樹林下に多いです。

国内や県内の分布

北海道から本州に分布し、県内では全県下に分布しますが、山地の山麓部で主に生育しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査で森地区の溪流脇の崖地で生育を確認しましたが、その後のモニタリングでは新たな生育地は確認できていません。湿潤な環境に生育するため、周辺の森林が伐採されると乾燥化を招き、生育が困難になります。

特記事項

コケシノブの仲間は葉がごく薄く、ほとんどが半透明です。この葉の形状から英語では *filmy ferns* と呼ばれ、「フィルム状のシダ」を意味します。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

ユウスゲ

別名キスゲ

【夕菅】
Hemerocallis citrina var. *vespertina*ススキノキ科
ワスレグサ属

種の特徴

多年生の草本で、夏季に高さ1～1.5mの花茎を伸ばし、淡黄色から黄色の花を次々に咲かせます。葉は長さ50cm程度の線形で、幅は5～15mmです。花には香りがあり、夕方に開花して翌日の午前中には萎んでしまいます。

生育環境

低山帯の草原や林縁に生育し、日の当たる環境を好みます。

国内や県内の分布

本州（関東地方以西）、四国、九州に分布し、県内では全県に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では、力石地区と森地区の山地の頂や稜線の草原、八幡地区の池沼の草原で生育を確認していますが、その後のモニタリングでも生育する個体数は少なく、植生の自然遷移や草原の管理放棄、シカによる食害などが絶滅危惧の要因です。

特記事項

ワスレグサ属の「ワスレグサ（忘れ草）」は、花の寿命が一日で終わると考えられたことに由来しますが、翌日や翌々日にも咲くものがあります。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：絶滅危惧ⅠB類 (EN) 環境省：指定なし

ヒエガエリ

【稗還り】
*Polygonum fugax*イネ科
ヒエガエリ属

種の特徴

イネ科の越年草^{えつねんそう}。茎は根元で枝分かれして、高さ30～50cm、葉は長さ5～15cm程度、幅は4～8mmで細長い。紫色を帯びた花序^{かじよ}は長さ5～8cmで茎の先に円錐状^{えんすいじょう}につきます。小穂は長さ約2mmで、苞穎^{ほうえい}の先の芒^{のぎ}は苞穎より短いか同じ長さです。

生育環境

人里から低山帯の日当たりの良い湿った荒地や草地に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州、沖縄に分布し、県内では北部と南部に生育の記録があります。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では、千曲川の河川敷や生萱地区の山麓で生育を確認しています。植生の自然遷移や洪水による生育地の流出が絶滅危惧の要因と考えられます。

特記事項

和名の由来は、姿がヒエ（稗）に似ているため、ヒエから変化したものと考えられたためと言われています。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

コヨウラクツツジ

【小瓔珞躑躅】
*Rhododendron pentandrum*ツツジ科
ヨウラクツツジ属

種の特徴

高さ2～3mになる落葉低木^{りんせいじょう}で、枝は輪生状^{りんせいじょう}に広がり、若い枝と葉には毛があります。葉の縁^{きよし}に鋸歯^{きよし}は無く長さは2.5～5cmです。5～6月に葉が出るのと同時に黄緑色から赤紫色で壺形^{せまししよく}の花を枝先に数個咲かせます。

生育環境

低山から亜高山帯の林内や林縁、尾根筋の岩場にも生育します。

国内や県内の分布

九州以北の冷温帯から亜寒帯に分布し、県内では全県の標高約1000～2400mの山地に生育します。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では、力石地区の標高約1200mの山地で4～5個体を確認しましたが、市内における生育地はこの1箇所のみで、森林の伐採により絶滅する危険性があります。

特記事項

和名は、花の姿や様子が仏像が身につけている装飾用具や寺院の軒^{のら}につるす壺形^{つぼがた}の飾りの瓔珞^{えんらく}に似ていて、花が小さいことに由来しています。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

ヒヨクソウ

【比翼草】
*Veronica laxa*オオバコ科
クワガタソウ属

種の特徴

多年草で高さは50～80cmになります。茎や葉、萼片には密に軟毛があり、葉は対生で広卵形、ほとんど柄がなく粗い鋸歯があります。花序は長く茎の上部の葉腋に出て斜上し、直径6～10mmの淡い青紫色の花を1～2個ずつ上へ咲き続けます。花期は5～7月です。同属のオオイヌノフグリの花と酷似しています。

生育環境

山地の日当たりの良い草地や林縁、林内に生育します。

国内や県内の分布

北海道西南部、本州、四国に分布し、県内では全県に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では、八幡地区と羽尾地区の山地の頂や稜線の草原で生育を確認しています。植生の自然遷移や草原の管理放棄、シカによる食害などが絶滅危惧の要因です。

特記事項

和名の由来は、葉腋から対になって花序を出す姿を比翼の鳥（古代中国の空想上の鳥で、雄と雌が翼と目の一つずつ持ち、雄雌が一体にならないと飛べないという鳥）に例えたと言われています。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

ホソバナアマナ

【細葉の甘菜】
*Lloydia triflora*ユリ科
チシマアマナ属

種の特徴

多年草で高さは12～25cm、鱗茎は球形で、茎の中部より上に出る2～4枚の葉の幅は3～6mm、最下の葉の長さは3～8cmです。花期は5～6月で直径1～1.5cmの白地に淡緑色の筋のある花を1～5個咲かせます。

生育環境

低山帯の日当たりの良い草原や適度に湿り気があり腐葉土が堆積した落葉広葉樹林の林縁に生育します。

国内や県内の分布

北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では全県に分布しますが産地は少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では、羽尾の山地の頂や倉科地区の山麓で生育を確認しています。土地の造成や踏みつけ、森林伐採、道路工事、森林の管理停止などによる減少が懸念されます。

特記事項

アマナ（ユリ科アマナ属）に似ていて葉が細いことが和名の由来ですがアマナとは別種です。近似種で県内の高山にも生育するチシマアマナ（ユリ科チシマアマナ属）は花が1個で鱗茎は円柱形、茎の中部にある葉の幅は1～2mmです。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ササバギンラン

【笹葉銀蘭】
*Cephalanthera longibracteata*ラン科
キンラン属

種の特徴

多年草で、ギンラン似ていますが全体に大きく、茎の高さは30～50cm、花の下にある苞は線形で、普通は花序よりも長くなります。花期は5～6月で、ギンランよりやや大きい白色の花を数個疎らにつけます。葉は狭い長楕円形で先が尖り6～8枚が互生します。

生育環境

丘陵帯から低山帯のやや暗い林内に生育します。

国内や県内の分布

北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では全県に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では、川西地区の山麓から標高約1,200mの山頂でも生育を確認していますが、個体数は少ないです。森林伐採や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす要因です。

特記事項

和名はギンランに似ていて細長い葉を笹に見立てたことに由来します。ラン科の植物は多くが菌類と共生関係にありササバギンランも例外ではありません。園芸目的で採取しても衰弱して、いずれ枯れて死滅してしまいます。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

アオガヤツリ

【青蚊帳吊】
*Cyperus nipponicus*カヤツリグサ科
カヤツリグサ属

種の特徴

小型の一年草で、高さは10～25cm、多くの場合、茎は叢生して放射状に広がります。葉の幅は1～2.5mm、花茎の先に長い葉状の苞が3～4個つきます。花序は苞の上や花序枝につき、直径0.5～2.5cmの球状で淡緑色。小穂の鱗片は2列に並びます。

生育環境

田の畦、池沼や河川の湿地に主に生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内でも全県に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では大田原地区で生育を確認しています。圃場整備や耕作地の放棄、農薬散布により生育地や個体数が減少する可能性があります。

特記事項

科名や属名のカヤツリグサは「蚊帳吊草」と書き、昔の子どもたちがカヤツリグサの茎を引き裂いて蚊帳の形に似た四角形を作って遊んだことに由来すると言われています。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：留意種 (N) 環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

サナギイチゴ

【猿投苺】
Rubus pungens var. *oldhamii*バラ科
キイチゴ属

種の特徴

高さ 20~50cm のつる性の小低木で、茎は細く長く伸び、1 年目の茎には疎らに細い刺があります。葉は 5~7 小葉の羽状複葉で質が薄く、縁は欠刻状の重鋸歯となっています。花期は 5~6 月で、葉腋から 1~数個の花をつける小枝を出します。花卉は白色~淡紅色で、集合果は球形、紅色に熟します。

生育環境

低山帯の落葉広葉樹林の林縁や林床、草地などに生育します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内では全県に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では、桑原地区の沢沿いで生育を確認していますが、他の場所では確認できていません。植生の遷移、森林伐採、道路工事などが絶滅危惧の要因です。

特記事項

和名の由来は、愛知県の猿投山で採取されたことから「サナゲイチゴ」と名付けられ、これが転化して「サナギイチゴ」になったと言われています。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ウメガサソウ

【梅笠草】
*Chimaphila japonica*ツツジ科
ウメガサソウ属

種の特徴

高さは 10cm 程の常緑の小低木です。葉は長楕円形または披針形で先が尖り、縁には鋸歯があり、節ごとに 2~5 枚が輪生状につきまます。花期は 6 月中旬から 8 月上旬で、茎の先に径約 1cm の白色の花をつけます。

生育環境

低山帯下部から亜高山帯の乾燥した林内に生育し、アカマツ林に比較的多く生育します。

国内や県内の分布

北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では全県に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では川西地区と川東地区の山地で、特にアカマツ林の林床で生育を確認していますが個体数は比較的少ないです。松枯れ病によるアカマツ林の荒廃で生育環境の悪化が懸念されます。

特記事項

和名は花の形が「梅」に似ていて、下を向いて咲く姿を「笠」に例えたのが由来です。花は控えめにいつも下を向いていますが、花期が過ぎて種子が膨らみ始めると、残った萼片とともに上を向きまます。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：準絶滅危惧 (NT)

キクタニギク 別名アワコガネギク

【菊溪菊】
Chrysanthemum seticuspe f. *boreale*キク科
キク属

種の特徴

多年草で、草丈 25～150cm で叢生し、盛んに枝分かれします。葉は長卵形で長さ 4～10cm、幅 3～6cm で互生し、5 深裂します。色は黄色みのある緑色で、裏面には毛が多く生えています。花期は 10～11 月で、茎の先端に黄色の頭花を多数つけます。

生育環境

やや乾いた土手や道端、林縁に生育します。

国内や県内の分布

岩手県以南の本州、九州北部に分布し、県内では中部と東部に多く、北部にも分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブックの現地調査では確認されませんでした。2016 年に屋代地区で 5 個体ほどの生育を確認しました。市内における生育地は少なく、除草や植生の遷移により個体数の減少が懸念されます。

特記事項

和名のキクタニ（菊溪）は京都東山の地名です。なお、1990 年代に法面緑化のために朝鮮半島・中国原産のキクタニギクの種子が持ち込まれ、国内の各地で分布を広げていますが外見で区別することは困難です。

動物の新規追加種

No.	綱名	科名	和名	2022 カテゴリー	カテゴリー追加理由
1	哺乳類	イタチ科	ニホンイタチ	DD	生息しているが評価する情報が不足しているため
2	鳥類	カモメ科	コアジサシ	EX	生息していたが市内では絶滅したと考えられるため
3	鳥類	タカ科	サシバ	CR+EN	渡りの時期に少数の個体の滞在が確認されたため
4	鳥類	カモ科	オンドリ	NT	市内で繁殖した可能性がある雌成鳥と幼鳥を確認したため
5	鳥類	シギ科	ハマシギ	NT	冬季に少数の個体の生息が通年で確認されたため
6	鳥類	ヒタキ科	コマドリ	NT	渡りの時期に少数の個体の滞在が確認されたため
7	鳥類	チドリ科	ケリ	DD	生息しているが評価する情報が不足しているため
8	鳥類	タカ科	ツミ	DD	生息しているが評価する情報が不足しているため
9	鳥類	カイツブリ科	カンムリカイツブリ	N	市内に生息記録があり、県や国のレッドリスト記載種のため
10	鳥類	サギ科	チュウサギ	N	市内に生息記録があり、県や国のレッドリスト記載種のため
11	鳥類	サギ科	コサギ	N	市内に生息し、県や国のレッドリスト記載種のため
12	鳥類	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	N	市内に生息記録があり、県や国のレッドリスト記載種のため
13	鳥類	シギ科	タカブシギ	N	市内に生息記録があり、県や国のレッドリスト記載種のため
14	鳥類	ブッポウソウ科	ブッポウソウ	N	市内に生息記録があり、県や国のレッドリスト記載種のため
15	鳥類	ヒタキ科	ノビタキ	N	市内に生息記録があり、県や国のレッドリスト記載種のため
16	爬虫類	スッポン科	ニホンスッポン	DD	生息しているが評価する情報が不足しているため
17	両生類	アオガエル科	モリアオガエル	CR+EN	少数の生息が確認され、生息環境の悪化が懸念されるため
18	両生類	アカガエル科	トノサマガエル	VU	トノサマガエルの侵入で交雑や個体数の減少が懸念されるため
19	両生類	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	NT	生息環境の悪化が懸念されるため
20	両生類	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	DD	生息しているが評価する情報が不足しているため
21	魚類	コイ科	シナイモツゴ	CR+EN	生息地が極めて少なく、開発や農薬の流入などにより容易に消滅する危険性が極めて高いため
22	魚類	ドジョウ科	ドジョウ	DD	生息しているが評価する情報が不足しているため
23	昆虫類	シジミチョウ科	クロツバメシジミ	CR+EN	個体数が少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
24	昆虫類	イトトンボ科	オオイトトンボ	VU	生息地が少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
25	昆虫類	ヤンマ科	ヤブヤンマ	VU	生息地が少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
26	昆虫類	ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ	VU	生息地が少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
27	昆虫類	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ	VU	生息地が少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
28	昆虫類	ゲンゴロウ科	マルガタゲンゴロウ	VU	生息地が少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
29	昆虫類	ミズスマシ科	ミズスマシ	VU	生息地が少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
30	昆虫類	ヒメドロムシ科	ケスジドロムシ	VU	生息地が少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
31	昆虫類	アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ	NT	希少植物を食草とし、外来種のホソオチョウと競合するおそれがあるため
32	昆虫類	カワトンボ科	アオハダトンボ	NT	少数の生息が確認されたため
33	昆虫類	スズメバチ科	モンスズメバチ	NT	少数の生息が確認されたため
34	昆虫類	ヒラタドロムシ科	マスダチビヒラタドロムシ	DD	生息しているが評価する情報が不足しているため
35	昆虫類	マキバサシガメ科	ベニモンマキバサシガメ	N	市内に生息記録があり、県や国のレッドリスト記載種のため
36	昆虫類	セセリチョウ科	ヘリグロチャバネセセリ	N	市内に生息し、県や国のレッドリスト記載種のため
37	昆虫類	ヤママユガ科	オナガミズアオ	N	市内に生息記録があり、県や国のレッドリスト記載種のため
38	昆虫類	オサムシ科	クロカタビロオサムシ	N	市内に生息し、県や国のレッドリスト記載種のため
39	昆虫類	コメツクムシ科	クロニセコメツク	N	市内に生息記録があり、県や国のレッドリスト記載種のため
40	貝類	ナンバンマイマイ科	カタマメマイマイ	CR+EN	生息地が極めて少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
41	貝類	ベッコウマイマイ科	ヒメハリマキビ	VU	生息地が少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
42	貝類	ナンバンマイマイ科	ヒダリマキマイマイ	VU	生息地が少なく、生息環境の悪化が懸念されるため
43	貝類	ケシガイ科	ケシガイ	NT	少数の生息が確認されたため
44	貝類	ベッコウマイマイ科	オオウエキビ	NT	少数の生息が確認されたため
45	貝類	ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ	N	市内に生息し、県や国のレッドリスト記載種のため

※貝類のクリロベッコウ（環境省レッドリストおよび長野県レッドリストの該当種）は千曲市内でも生息が確認されていますが、分類学的研究が進んでおらず、今後、複数種に再分類される可能性があるため、専門家の意見を仰ぎ、今回の新規追加種の対象外としました。

ニホンイタチ

【日本鼬、日本鼬鼠】
*Mustela itatsi*イタチ科
イタチ属

種の特徴

頭胴長は雄 27～37cm、雌 16～25cm。尾長は雄 12～16cm、雌 7～9cm。全身は山吹色で、額の中央部から鼻鏡部にかけて濃褐色の斑紋があります。カエルやネズミ類、鳥類、昆虫類のほか、水中のザリガニや小魚なども食べます。

生育環境

主に水辺を行動圏とし、土に穴を掘って巣にします。繁殖期には平均 3～5 頭の仔を産みます。

国内や県内の分布

本州、九州、四国、佐渡、隠岐諸島、伊豆大島などに分布し、北海道には 1980 年代に移入しました。

市内の状況と絶滅危惧要因

2019 年に磯部の千曲川河川敷で確認しました。外来種と言われるチョウセンイタチに似ていますが、全長に対する尾の長さの率がチョウセンイタチは 50% 以上でニホンイタチは約 40% と言われています。市内における両種の生息状況は不明ですが、今後、チョウセンイタチの生息域拡大によりニホンイタチの生息域が奪われる可能性があります。

特記事項

ニホンイタチは国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストで準絶滅危惧 (NT) に該当していますが、市内におけるニホンイタチやチョウセンイタチの生息情報は少ないと考えられます。

市内絶滅 (EX)

長野県：絶滅危惧 I A 類 (CR) 環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)

コアジサシ

【小繸刺】
*Sterna albifrons*カモメ科
アジサシ属

種の特徴

全長約 25cm、翼を広げた大きさは約 53cm、成鳥の夏羽は頭頂から後頭部が黒色、嘴は黄色、脚は橙黄色。冬羽は額から頭頂部まで白色で嘴と脚は黒色になります。空中から水面にダイビングして小魚を捕ります。砂礫地に浅い穴を掘って巣にします。

生育環境

大きな河川の草のない河原や中州、砂浜、埋立地に造成された裸地を一時的に利用して生息します。

国内や県内の分布

夏鳥として 4 月に渡来し、長野県を含む本州以南の内湾や沿岸部、大きな河川の中～下流域の河原や中州に生息します。

市内の状況と絶滅危惧要因

1990 年ころまでは市内でも千曲川の大きな中州に少数が生息していましたが、現在ではまったく確認できません。中州など砂礫地の草地化、洪水による生息地の消失、カラスやチョウゲンボウなどによる捕食、生息地への車や人の立ち入りなどが絶滅危惧の要因となっています。

特記事項

東京湾や大阪湾、伊勢湾などの都市に近い埋立地では時に大規模な集団繁殖がみられます。卵と雛はまだら模様で小石と区別がつきにくくなっています。

サシバ

【差羽、刺羽、鷲】

Butastur indicus

タカ科

サシバ属



雄成鳥

種の特徴

全長は約 50cm、翼を広げた大きさは約 110cm でハシボソガラス大の猛禽類。個体差はありますが、頬は灰色で薄い眉斑があり、喉は白く中央に黒い縦線があります。背や翼の上面は褐色、胸は濃褐色で腹は白く、褐色の横斑があり、尾には褐色～黒色の横帯があります。ヘビやカエル、昆虫類を主に餌にしています。

生育環境

山麓の森林と草地在り、特に谷地形の谷津田と呼ばれる水田と森林が隣接する環境に生息します。

国内や県内の分布

日本には夏鳥として本州、四国、九州に渡来します。県内では全県の低山帯に渡来します。

市内の状況と絶滅危惧要因

2019年に東山の山麓で繁殖期に特徴的な「ピックイー」という鳴き声を確認しています。渡り途上の個体の可能性が高いですが一定期間とどまっています。全国的に渡りの数が減少傾向で、国内における生息地の開発、農業使用による餌の減少、越冬地の東南アジアの環境悪化などが絶滅危惧の要因です。一時的な立ち寄り地ですが保護が必要です。

特記事項

県内にはサシバを含むタカ類の主要な渡りルートが存在し、松本市奈川と乗鞍の間にある白樺峠は多くのタカ類が渡る有名スポットで、毎年9月上旬から11月中旬ころまで15種類ほどのタカの渡りを観察することができます。

準絶滅危惧 (NT)

オシドリ

【鴛鴦】

Aix galericulata

カモ科

オシドリ属



雄成鳥

雌成鳥と幼鳥

種の特徴

全長は約 40～50cm、雄は青、紫、橙、赤などのカラフルな色彩で翼の三角形の飾り羽が目立ちます。雌は全身が灰色がかった褐色で、白いアイリングが後方に伸びています。大木の樹洞に巣をつくり繁殖します。

生育環境

平地から山地にかけての広葉樹が繁茂する水辺に生息し、大木のある都市公園でも生息しています。

国内や県内の分布

本州中部以北と中国山地の一部で繁殖し、冬は本州以南で越冬します。

市内の状況と絶滅危惧要因

2018年に森地区の用水路で雌の成鳥と幼鳥を確認しました。付近で営巣して繁殖した可能性が高く、神社の大径木の樹洞で繁殖し、用水路内を移動してきたものと考えられます。大径木の伐採で繁殖場所を失う可能性があります。

特記事項

仲の良い夫婦を「おしどり夫婦」と言いますが、オシドリは毎年冬にパートナーを変え、抱卵も雌のみが行い、育雛も雌雄では行わないことが知られています。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：準絶滅危惧 (NT)

ハマシギ

【浜鷗】
*Calidris alpina*シギ科
オバシギ属

種の特徴

全長は約 21cm、冬羽は上面が灰ねずみ色で下面は白く、胸に幅広い灰色の帯があります。夏羽は頭上と翼が赤っぽく、下面の地色は白で腹が黒くなります。主に貝類や甲殻類、ゴカイ、泥の中の水生昆虫などを食べます。

生育環境

干潟や砂浜、河口の海岸部、内陸の大きな川や湖の川岸や湖岸などに生息します。

国内や県内の分布

日本には冬鳥または旅鳥として全国各地に渡来します。県内でも大きな河川や諏訪湖などに渡来します。

市内の状況と絶滅危惧要因

毎年、冬鳥として戸倉上山田地区などの千曲川の川岸で見ることができ、数個体から 10 個体程度の群れで行動しています。全国的に個体数は多いものの減少傾向にあり、各地で越冬数が減っていると言われています。

特記事項

古くはハマチドリ（浜千鳥）とも呼ばれていました。和名は浜辺で見られるシギが由来となっています。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

コマドリ

【駒鳥】
*Luscinia akahige*ヒタキ科
ノゴマ属

雄成鳥

種の特徴

全長は約 14cm、雄は上面が暗い赤褐色で頭部から胸にかけてと尾は明るい赤褐色、雌の上面は雄より暗い緑がかかった褐色で、顔から胸にかけて黄色みを帯びた褐色です。美声で知られ、繁殖期には「ヒンカラカラカラ…」と甲高く鳴きます。

生育環境

亜高山帯の溪谷や下草の茂った針葉樹や混交林の斜面林内に生息します。

国内や県内の分布

日本には夏鳥として九州以北に渡来して繁殖し、冬は中国（中華人民共和国）の南部に渡り越冬します。

市内の状況と絶滅危惧要因

2013 年の春先に東山の溪谷で確認しました。渡りの途中で立ち寄った個体と考えられますが、溪流の砂防工事や溪畔林の伐採などが行われると生息場所を失ってしまいます。一時的な立ち寄り地ですが保護が必要です。

特記事項

学名の *akahige* は同属のアカヒゲのことで、アカヒゲの学名 *Luscinia komadori* の *komadori* はコマドリのことで、学名を登録する際に取り違えられたと言われています。

情報不足 (DD)

長野県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：情報不足 (DD)

ケリ

【鳧、計里、水札】
*Vanellus cinereus*チドリ科
タゲリ属

種の特徴

全長は約 36cm、頭部から胸は青灰色^{せいけいしよく}、上面は茶褐色、腹部は灰色で胸と腹部の境界に黒色の線があります。目は赤く、アイリングは黄色で、黄色く長い足が特徴的なチドリ類です。湿地や水田などで昆虫類やイネ科などの種子を食べます。

生育環境

耕作地^{きやうち}、休耕田^{きゅうけいでん}、放棄水田、河川敷、草地などに生息し繁殖します。

国内や県内の分布

主に本州中部と北部で局所的に繁殖し、本州北部では夏鳥です。県内では北信や中信、諏訪地域などで少数が生息し繁殖します。

市内の状況と絶滅危惧要因

過去に市内の耕作地で確認された記録はありますが、渡来数や繁殖状況などの詳細は不明です。圃場整備^{ほじょうせいび}や耕作方法、耕作時期の変化により繁殖に影響を受けている可能性があります。

特記事項

鳴き声が「キリッ、キリッ」、「ケリッ」、「ケケッ」などと聞こえることから「ケリ」という和名がついたと言われています。

情報不足 (DD)

長野県：情報不足 (DD) 環境省：指定なし

ツミ

【雀鷹、雀鷲】
*Accipiter gularis*タカ科
ハイタカ属

種の特徴

全長は雄が約 27cm、雌が約 30cm で最も小型のタカ類です。雄は頭部から背、翼の上面、尾は青灰色^{せいけいしよく}。下面は白く、胸と脇腹が淡いオレンジ色。黄色いアイリングが特徴です。雌は下面に褐色の横斑が多数あります。背は雄よりも褐色が強いです。

生育環境

平地から亜高山帯の森林に生息します。主に小鳥類を捕食します。

国内や県内の分布

北海道から南西諸島で繁殖し、九州以北では夏鳥です。県内では全県の平地から亜高山帯に生息します。

市内の状況と絶滅危惧要因

2020年に屋代地区の山地の上空を飛翔する個体を確認しました。山麓の林やその上空で少数が確認されますが、個体数などの生息情報は少ないのが現状です。県内でも同じタカ科のハイタカより確認数は少ないと言われています。

特記事項

1980年代中頃から関東を中心に住宅街の緑地等で繁殖が増えています。

「ツミ (雀鷹)」は雌につけられていた名前、雄は「エッサイ (悦哉)」と呼ばれていました。

留意種 (N)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

カンムリカイツブリ

【冠鳩】
*Podiceps cristatus*カイツブリ科
カンムリカイツブリ属

種の特徴

全長は最大で約 60cm で、日本のカイツブリの仲間では一番大きいです。首が長く夏羽は額から頭頂は黒く冠羽状になり、顔の後方には黒色と赤褐色の飾り羽がありますが、冬羽は顔の飾り羽がなくなり冠羽も短くなります。

生育環境

湖沼やため池、河川に生息し、潜水して魚類や甲殻類、昆虫類、両生類などを食べます。

国内や県内の分布

本州の関東以西に冬鳥として渡来し、県内でも冬鳥として 10 月～3 月に観察できます。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲川で少数を確認することができます。主に魚類を捕食しますが、外来魚のオオクチバスやコクチバスが増え、カンムリカイツブリの餌に適した在来の小型魚類の減少が生息環境を悪化させていると考えられています。

特記事項

繁殖期には雄と雌が向かい合って、「カッカッ」と鳴きながらくちばしを左右に振るなどの多様な求愛の動作を行います。水草の茎や葉を使って水面に浮く皿形の浮き巣を作り産卵と子育てを行います。

留意種 (N)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：準絶滅危惧 (NT)

チュウサギ

【中鷺】
*Egretta intermedia*サギ科
コサギ属

種の特徴

全長は最大で 72cm、全身が白色で繁殖期には胸と肩に飾り羽が生じます。雌雄同色で、ほかのサギに比べてくちばしは短く、繁殖期には黒色で目先は鮮黄色。非繁殖期のくちばしは黄色。足は長く黒色。ややずんぐりしています。

生育環境

平地の水田や湿地等に生息し、雑木林やアカマツ林等でコサギやダイサギなどと集団営巣を行います。

国内や県内の分布

夏鳥として本州以南に渡来し、県内では主に渡り鳥として春と秋に少数が飛来しますが、繁殖期にも確認され、営巣している可能性があります。

市内の状況と絶滅危惧要因

過去に市内の水田などで確認された記録はありますが、渡来数や繁殖状況などの詳細は不明です。圃場整備や農薬使用による餌生物の減少、営巣林の伐採などで個体数が減少していると言われています。

特記事項

「シラサギ」は俗名ですが、同じシラサギの仲間のコサギやダイサギとの区別は大きさのほか、口角の位置や足指の色などで見分けます。

留意種 (N)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

コサギ

【小鷺】
*Egretta garzetta*サギ科
コサギ属

種の特徴

全長は約 61cm、雌雄同色で全身が白色、夏羽は後頭部に 2 本の冠羽が伸び、背や胸に細長い飾り羽があります。嘴と脚は黒く足指は黄色です。繁殖期は目先が赤く、虹彩が青緑色になります。冬羽は冠羽がなくなります。

生育環境

水田や湿地、河川などの水辺に生息し、河畔林などをねぐらや集団営巣地に利用します。

国内や県内の分布

本州から九州で繁殖する夏鳥ですが本州以南では越冬します。県内では全県下で一年中生息します。

市内の状況と絶滅危惧要因

市内の水田、河川、用水路、池沼などで比較的普通に生息しますが、圃場整備や農薬使用による餌生物の減少、営巣林の伐採などで東日本で減少傾向にあり、県内でも地域により急激に減少あるいは減少傾向にあります。

特記事項

河川の浅瀬や水田で魚類やカエル類、アメリカザリガニなどの甲殻類を食べますが、水中を足でかき回して獲物を追い出したり、翼で影を作るなどの様々な採餌方法を行います。

留意種 (N)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

ハリオアマツバメ

【針尾雨燕】
*Hirundapus caudacutus*アマツバメ科
ハリオアマツバメ属

種の特徴

全長は約 20cm、翼を広げた大きさは約 52cm。雌雄同色で全身はほぼ黒褐色、喉と下尾筒、三列風切の一部が白色、背は灰白色。尾は短い角形で先端の羽軸は針状に突き出しています。岩稜地帯の上空を数羽から 30 羽くらいの群れで飛び回ります。

生育環境

高山や海岸などに生息し、本州では低山帯から高山帯に生息します。

国内や県内の分布

夏鳥として 4 月頃に渡来し、北海道と本州中部以北で繁殖します。県内では低山帯から高山帯に生息します。

市内の状況と絶滅危惧要因

過去に市内で確認された記録はありますが、確認場所や渡来数などの詳細は不明です。森林伐採や森林開発などによる営巣に適した樹洞の減少などが絶滅危惧の要因とされています。

特記事項

鳥類の中でも一位、二位を争う飛行速度で飛び、その速度は時速 170km とも言われています。繁殖以外で地上に降りることはなく、飛行しながら虫を捕食し、水面ぎりぎりを飛び水を飲み、眠るときも低速で飛びながら眠ります。

留意種 (N)

長野県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

タカブシギ

【鷹斑鶺】
*Tringa glareola*シギ科
クサシギ属

種の特徴

全長は約 20cm の小型のシギ類です。嘴は細く長く、脚は黄色で長いです。雌雄同色で上面は黒褐色に白斑、腹部は白色、眉斑は白色です。主に水域に生息して水中の軟体動物やクモ類、昆虫類、魚類、カエル類、種子などを餌にしています。

生育環境

水田や干潟、湖沼、河川などに生息し、主に陸水域で多く生息します。

国内や県内の分布

北海道から南西諸島まで渡り鳥として確認され、関東以南の地域では冬鳥として越冬します。県内では旅鳥としてごく少数が通過します。

市内の状況と絶滅危惧要因

市内でも確認された記録はありますが、個体数などの詳細は不明です。

国内での個体数は著しく減少しており、生息地の埋立や乾田化、放棄水田の草地化などが絶滅危惧の要因です。

特記事項

背中から尾羽にかけての黒地に白斑が鷹斑（黒と白のまだら模様）に似ていることが和名の由来となっています。また本種に似ているクサシギよりも足が長い「高歩」とも言われます。

留意種 (N)

長野県：絶滅危惧ⅠA類 (CR) 環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

ブッポウソウ

【仏法僧】
*Eurystomus orientalis*ブッポウソウ科
ブッポウソウ属

種の特徴

全長は約 30cm、翼を広げた大きさは約 60cm。雌雄同色で頭部は黒褐色、体は濃い青緑色で、飛ぶと翼の白斑が目立ちます。嘴と脚は鮮やかな赤色です。主に飛んでいるトンボ類やクワガタ類、セミ類などの昆虫類を捕食します。

生育環境

低山帯の針広混交林やブナ林等に隣接した開けた環境に生息します。

国内や県内の分布

夏鳥として本州、四国、九州に渡来し、県内では北信と南信に局所的に渡来して繁殖しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

過去に渡りの途中と思われる個体が確認されていますが、個体数や滞在期間などの詳細は不明です。生育環境や営巣環境の悪化が主な絶滅危惧の要因とされ、現在では巣箱をかける保護活動によって全国で 400～500 つがいに回復し、長野県で最も多く繁殖しています。

特記事項

平安時代から長い間、夜に「ブッ・ポウ・ソウ」と鳴く鳥は本種とされていました。その正体はフクロウの仲間のコノハズクと判明しました。本種ブッポウソウは「ゲツ、ゲツ」と鳴きます。

留意種 (N)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

ノビタキ

【野鶉】
*Saxicola torquatus*ヒタキ科
ノビタキ属

種の特徴

全長は約 13cm でスズメより小さいです。雌雄異色で、雄の夏羽は喉から頭部が黒色で翼に白斑が目立ち、胸は赤褐色で、腹部から下尾筒は白色です。雌は全体的に灰褐色で翼に小さい白斑があり、胸は淡い橙色です。雌の冬羽は翼の白斑がなくなります。

生育環境

山地や亜高山帯の草原に生息し、比較的裸地の多い草原を好みます。

国内や県内の分布

夏鳥として北海道、本州中部以北や中国山地の一部に渡来して繁殖します。県内では全県の平地から亜高山帯の草原に生息し、繁殖しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲川の河川敷で渡り途上と思われる個体の確認記録はありますが、個体数などの詳細は不明です。植生遷移による草原の減少、放置による荒廃や開発による生息環境の消失が主な絶滅危惧の要因です。

特記事項

求愛期の雄は、雌の前で地上から空中に飛び上がっては下りる繰り返し、翼を半分開いて白斑を見せつけます。

情報不足 (DD)

長野県：指定なし 環境省：情報不足 (DD)

ニホンスッポン

【日本(鼈・鼈・鱉・丸魚)】
*Pelodiscus sinensis*スッポン科
キョクトウスッポン属

種の特徴

甲羅の長さは普通 130～180mm、体の背面は灰褐色で腹面は黄色または白色です。甲羅の表面は湿った皮革質で覆われており、スッポン科以外のカメ類がもつ角質の鱗板はありません。頸は非常に長く、鼻孔は吻端にあります。

生育環境

水底が砂泥質の河川の中～下流域や池沼に生息し、小魚や水生昆虫、貝類などを食べます。

国内や県内の分布

本州、四国、九州および周辺の離島に分布し、県内でも平地の河川や池沼に生息します。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲川のワンドや砂泥底の緩流部で捕獲や目撃例がありますが、個体数などの詳細は不明です。国内には在来で遺伝的独自性の高い集団に加え、特に南西諸島では台湾や大陸から持ち込まれた外来性集団も定着しているため、集団間での競争や交雑が懸念されていますが実態は不明です。

特記事項

攻撃的で噛みつくことがあるスッポンは「噛みついたら雷が鳴るまで離さない」と言われますが、噛みつかれたら10秒ほどそのままにしておけば離すことが多く、水に戻せば大抵の場合は泳いで逃げると言われています。

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

モリアオガエル

【森青蛙】
*Zhangixalus arboreus*アオガエル科
アオガエル属

卵塊 (樹上)

種の特徴

体長は 42～82mm で雌の方が大きく、雄の体長は 60mm 以下です。ため池などに張り出した樹木の枝先に泡状の卵塊を産みます。孵化した幼生（オタマジャクシ）は下のため池などに落下します。繁殖期の雄は「ココッ、ココッ、ココココッ」と鳴きます。

生育環境

森林性のカエルで林とため池が隣接する環境を好みます。山麓の林縁部にも稀に生息します。

国内や県内の分布

茨城県を除く本州、佐渡島、四国に分布し、県内では北信、大北地域、南信に生息します。

市内の状況と絶滅危惧要因

桑原地区の山地で確認されており、林とため池が隣接する環境に生息しています。産卵期の卵塊数から推察すると個体数はあまり多くないものと思われます。森林開発や山地のため池の埋め立て、ため池への外来魚（ブラックバスやブルーギル）の放流による幼生（オタマジャクシ）の捕食が絶滅危惧の要因と考えられます。

特記事項

長野県版レッドデータブック動物編（2004）に掲載された分布図に千曲市は含まれておらず、千曲市版レッドデータブック（2011）の現地調査でも未確認でしたが 2013 年に初めて確認されました。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：準絶滅危惧 (NT)

トウキョウダルマガエル

【東京達磨蛙】
*Pelophylax porosus porosus*アカガエル科
トノサマガエル属

種の特徴

体長 39～87mm で、雌の方が大きいです。トノサマガエルによく似ていますが、個々の暗色の模様が独立していることが多いのが特徴とされています。また、トノサマガエルより四肢（手足）が短いとされています。「ンゲゲゲゲ……」と鳴きます。

生育環境

主に平地の水田やため池などに生息し、小河川にも生息していることがあります。

国内や県内の分布

関東平野から仙台平野にかけて、および新潟県と長野県の一部に分布します。県内では北信、大北地域、中信、東信に分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

平地から山麓の水田、ため池などに生息しています。水田の耕作放棄、圃場整備、ため池や池沼の埋め立てが主な絶滅危惧の要因とされ、近年では中信以南に生息するトノサマガエルのうち、安曇野を含む松本盆地の個体が犀川経由で北信地域に侵入していることが分かり、交雑や個体数の減少が危惧されています。

特記事項

長野県内にはトウキョウダルマガエルとトノサマガエルのほかに、分類学上トウキョウダルマガエルの亜種と言われるナゴヤダルマガエル（長野県伊那谷、東海、近畿、山陽、四国の瀬戸内海沿岸に分布）の生息も知られています。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

シュレーゲルアオガエル

【シュレーゲル青蛙】
*Zhangixalus schlegelii*アオガエル科
アオガエル属

種の特徴

体長は 32～53mm で、雌の方が大きいです。モリアオガエルに似ていますが、やや小さく、黄色の虹彩が特徴です。産卵は水田の畦などで行い、泡状の卵塊を産みます。土中に産卵することが多くあまり目立ちません。産卵期の雄は「コロロ、コロロ…」と鳴きます。

生育環境

水田、池沼、湿地や隣接する森林に生息します。産卵期に水田や池沼、湿地に集まってきました。

国内や県内の分布

本州、四国、九州および周辺の島に分布します。県内では全県の主に山麓の水田地帯に生息します。

市内の状況と絶滅危惧要因

山麓や標高のやや高い集落で姿や鳴き声を確認することができます。モリアオガエルより個体数は多いと思われます。森林開発や山地水田の埋め立て、圃場整備で個体数を減らすことが危惧されます。

特記事項

和名と学名のシュレーゲル (*schlegelii*) は、「シュレーゲル氏」の意味で、シーボルトが本種を日本で採集して研究を行い、当時、オランダのライデン王立自然史博物館館長だった Schlegel 氏に学名の献名を行ったものです。

情報不足 (DD)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

アズマヒキガエル

【東墓蛙】
*Bufo japonicus formosus*ヒキガエル科
ヒキガエル属

種の特徴

体長 45～160mm の大型のカエルで、ニホンヒキガエルの東北日本産亜種です。一般に「ガマガエル」と呼ばれ、全身にさまざまな大きさのイボ状隆起で覆われています。鼓膜の後ろの耳腺からは毒液を分泌します。

生育環境

標高 0m 近くの海岸から標高 2500m の高山におよぶ様々な環境に生息します。

国内や県内の分布

本州東北部（近畿および山陰まで）に分布し、北海道や佐渡島、伊豆半島に人為移入しています。県内では全県の平地から高山まで分布していると思われます。

市内の状況と絶滅危惧要因

主に山麓から山地にかけて生息していると考えられますが詳細は不明です。林道や道路の開設による産卵場所（浅い池沼や湿地）の消失、生息場所の分断、産卵期における移動個体の轢死などで個体数の減少が危惧されます。

特記事項

繁殖期の産卵には雌の 3～10 倍の数の雄が集まり、雌の争奪戦を繰り広げます。その壮絶な争奪戦は「ガマ合戦」や「蛙合戦」と呼ばれます。産卵された卵囊は長いひも状で長さが 5m 以上におよぶことがあります。

シナイモツゴ

【品井持子】

*Pseudorasbora pumila*コイ科
モツゴ属

産卵

産卵期の婚姻色が現れた雄(上)、雌(下)

種の特徴

全長は最大で約 8cm で、体側の線(側線)はモツゴと異なり不完全で、ふつう前方の 1~5 枚の鱗にのみ見られます。モツゴに比べ頭部が大きく尾が短いので全体にずんぐりとした印象です。またモツゴより下あごが上にせり上がっています。

生育環境

比較的小さい泥底の池沼で、ヒシやヒルムシロなどの浮葉植物が水面を覆っている環境を好みます。

国内や県内の分布

日本海側では秋田県、山形県、新潟県、長野県、太平洋側では岩手県、宮城県、福島県に分布し、県内では長野市、真田町、栄村に分布が知られています。

市内の状況と絶滅危惧要因

2016年に川西地区の極めて限られたため池で初めて生息が確認され、ヒルムシロへの産卵も確認しました。全国的にも絶滅の危険度は極めて高く、モツゴと混生すると種間雑種を経てモツゴに置き換わるほか、外来魚(ブラックバス、ブルーギル)やコイの放流による捕食、ため池の改修や管理放棄が絶滅危惧の大きな要因と言われています。

特記事項

シナイモツゴやモツゴはクチボソとも呼ばれ、水面で餌を食べるときは小さな口で勢よく吸い込むため、「パチパチ」や「ポン」と言うような音を発生させることがあります。

情報不足 (DD)

ドジョウ

【泥鰌、鰌、鰍】

*Misgurnus anguillicaudatus*ドジョウ科
ドジョウ属

尾びれ基部の小さな黒色斑

種の特徴

全長は最大で約 15cm で雌の方が大きくなります。体は細長く、体色は淡褐色~暗褐色で、不明瞭な斑紋があります。口ひげは 5 対 (10 本) です。雄の胸びれの先端は尖り、雌では丸みを帯びます。尾びれの基部に小さな黒色斑があるのも特徴です。

生育環境

河川の中流~下流、用水路などの流れの緩やかな泥底に棲み、初夏に水田などに侵入して産卵します。

国内や県内の分布

ほぼ日本全国に分布し、県内でもほぼ全域に分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

平野部から山間部の流れが緩やかな河川や用水路、代掻きが終わったあとの水田、水田脇の小さな流れなどに生息しています。河川改修や圃場整備、農業流出、外国産近縁種カラドジョウとの競合や交雑が懸念されています。

特記事項

昔から重要な食用魚で「柳川鍋」は有名です。産卵は水田などの浅い場所で行われ、ときには複数の雄が 1 匹の雌に巻き付き行われます。巻き付いた瞬間に雌から「キュッ」という音が聞こえることがあります。

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

長野県：留意種 (N) 環境省：準絶滅危惧 (NT)

クロツバメシジミ 東日本亜種

【黒燕小灰蝶】
*Tongeia fischeri japonica*シジミチョウ科
クロツバメシジミ属

ツメレンゲ

種の特徴

翅を広げた大きさが 22~26mm の小型のシジミチョウで、翅の表面は雄雌とも黒色、裏面は灰白色に白い縁取りのある黒点が散在します。幼虫の食草はツメレンゲ (ベンケイソウ科) などの多肉植物で、葉の中に入り込んで食べます。

生育環境

幼虫の食草が生える河川の護岸や人家の石垣、岩の露出した場所や岩場などに生息します。

国内や県内の分布

本州中部、四国、九州、^{いっきつしま} 老岐対馬に局地的に分布し、県内では全県の人里周辺から低山にかけて分布します。

市内の状況と絶滅危惧要因

若宮や八幡の限られた場所で少数の個体が確認されています。幼虫の食草となるツメレンゲ (市の絶滅危惧ⅠB類) やマンネングサ類の市内における生育地は少なく、食草が無くなるとクロツバメシジミも生息できなくなってしまうです。

特記事項

クロツバメシジミは地域的に模様の変異が大きく、亜種として東日本亜種、九州沿岸亜種、中国地方・四国・九州内陸亜種に分けられています (国土交通省：河川水辺の国勢調査のための生物リスト,2021)。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

オオイトトンボ

【大糸蜻蛉】
*Paracercion sieboldii*イトトンボ科
クロイトトンボ属

種の特徴

体長は約 27~39mm、雄は胸部前面と腹部背面に黒条斑があり、腹節が青色のイトトンボです。雌の体色は黄緑色か青色です。春型は大きく夏型は小さいです。成虫は6~9月頃に見られます。

生育環境

平地~山麓の抽水植物や浮葉植物の繁茂する水質の良い池沼、湿地、水田などに生息します。

国内や県内の分布

北海道、本州、四国、九州に分布し、離島にも分布しますが西日本では生息地が限られます。県内では低地に広く分布し、高地では稀です。

市内の状況と絶滅危惧要因

2013年に桑原の小さなため池で4個体(雄雌連結が2ペア)が初めて確認されましたが、市内での生息場所は極めて少ないのが現状です。ため池の改修、埋め立て、水質汚濁、管理放棄による生息地と個体数の減少が懸念されます。

特記事項

学名の *sieboldii* は江戸末期に長崎に滞在して日本で動植物の研究を行ったドイツ人のシーボルトに由来しています。茅野市と立科町にまたがる白樺湖 (標高 1420m) は本種の日本における最高垂直分布地となっています。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ヤブヤンマ

【藪蜻蛉】

*Polycanthagyna melanictera*ヤンマ科
ヤブヤンマ属

種の特徴

全長は約80～93mm、翅を上げた大きさは約120mmの大型のヤンマです。黄色の地に黒い条斑があり、成熟すると黄色部が黄緑色に変わり黒みが増します。雄は複眼が青藍色に輝き、腹部第2～3節の下縁部が鮮やかな青色に変色します。雌には稀に青みの強いタイプがあります。成虫は薄暗い藪の中などで枝などにぶら下がり静止しています。

生育環境

主に丘陵地や低山地の植物性沈積物の多い木陰の池沼や水たまりに生息します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州および離島に分布します。県内各地の山間部～平地の木陰の多い池沼に生息します。

市内の状況と絶滅危惧要因

2013年に市内では30年ぶりに川西地区山麓部の小さな池で、羽化殻も含めて15個体が確認されました。

生息場所となる木陰の池沼がなくなると本種の生息環境も消失し、個体数の減少が懸念されます。

特記事項

本種はたそがれ活動性が強く、日中は林内の暗部に潜伏して休み、早朝と夕暮れに活動します。

学名には「黒色と黄色の」という意味があります。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：準絶滅危惧 (NT)

クロゲンゴロウ

【黒竜蝨・黒源五郎】

*Cybister brevis*ゲンゴロウ科
ゲンゴロウ属

種の特徴

体長は20～25mm、体形はやや扁平な卵形で、背面は緑褐色を帯びた黒色で光沢があり、脚の一部だけ赤褐色です。雄の前脚は円形の吸盤状に変形します。近似種とは斑紋がない点と体長のサイズで区別することができます。

生育環境

平地から低山の二次林に囲まれた水草の豊富な池沼や水田、休耕田などに生息します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内では北信と中南信に分布しますが局所的です。

市内の状況と絶滅危惧要因

川西地区の山間部のため池で確認されています。個体数は少なく、ため池や池沼の開発、圃場整備、農薬や生活排水の流入による水質汚染、外来生物であるアメリカザリガニやウシガエルなどによる捕食、採集圧が絶滅危惧の要因です。

特記事項

成虫は夏季に灯火へも飛来します。幼虫の体形は細長く、頭にある大きな顎で小型の水生動物に噛みつき食べます。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ゲンゴロウ

【竜蝨・源五郎】
*Cybister chinensis*ゲンゴロウ科
ゲンゴロウ属

種の特徴

体長は34～42mm、体形は卵形でやや扁平です。背面は緑褐色で光沢があります。頭部、前胸、上翅の側縁は黄褐色です。後肢は平たく幅広で内側に細毛列があり、泳ぐときは左右の肢をオールのように一緒に動かします。

生育環境

平地から山地の水生植物が生育するため池や池沼、水田、休耕田などに生息します。

国内や県内の分布

北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では全県下に分布または分布記録があります。

市内の状況と絶滅危惧要因

川西地区の山麓のため池1箇所のみで数個体が確認されています。ため池や池沼の開発、圃場整備、農薬や生活排水の流入による水質汚染、外来生物であるアメリカザリガニやウシガエルなどによる捕食、マニアによる採集圧が絶滅危惧の要因です。

特記事項

かつて、長野県ではゲンゴロウを「トウクロウ」と呼び、東信地方や諏訪地方では塩炒りや煮付けにして食べられていました。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

マルガタゲンゴロウ

【円形竜蝨・円形源五郎】
*Graphoderus adamsii*ゲンゴロウ科
マルガタゲンゴロウ属

種の特徴

体長は13～15mm、体形は卵形で強く盛り上がり光沢があります。前胸背板と上翅は黄褐色で網目模様は黒色、前胸背の前後縁に黒色横帯紋、頭部に黒色のV字紋があります。雄の前脚は円形の吸盤状に変形します。近似種とは斑紋とサイズで区別することができます。

生育環境

平地から低山の二次林に囲まれた水草の豊富な池沼や水田、休耕田などに生息します。

国内や県内の分布

北海道、本州、四国、九州に分布し、県内での分布は非常に局所的で飯山市、長野市、南箕輪村で確認されています。

市内の状況と絶滅危惧要因

2017年に川西地区の山地のため池で1個体が確認されています。ため池や池沼の開発、圃場整備、農薬や生活排水の流入による水質汚染、外来生物による捕食、マニアによる採集圧が絶滅危惧の要因です。

特記事項

アメリカザリガニなどの外来種が侵入した生息地では、他の種に先駆けて確認できなくなると言われています。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ミズスマシ

【水澄まし、鼓豆虫】
*Gyrinus japonicus*ミズスマシ科
ミズスマシ属

種の特徴

体長は6~7.5mm、体形は流線型、背面は滑らかな黒色で金属光沢があります。上翅には11条の点刻列があります。複眼は上下に2分され、上部の眼は空中を、下部の眼は水中を見ることができます。水面を群泳して水面に落ちた小昆虫類などを食べます。

生育環境

平地から丘陵地の池沼、水田、河川の淀みに生息し、特に水のきれいな開けた水域を好みます。

国内や県内の分布

北海道、本州、四国、九州に分布しますが激減しています。県内では全県に生息または生息記録がありません。

市内の状況と絶滅危惧要因

川西地区の山麓部の池で確認しています。確認例が少なく個体数も20個体前後です。ため池や池沼の開発、圃場整備、農薬や生活排水の流入による水質汚染、外来生物による捕食が絶滅危惧の要因です。

特記事項

ミズスマシは中と後ろ足を1秒間に数十回動かして水面をグルグル周りながら泳ぎ、波を作って、その波に何かがぶつかって反射してきた様子を触角の付け根の感覚器官で察知して飛びかかります。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：指定なし 環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ケスジドロムシ

【毛筋泥虫】
*Pseudamphilus japonicus*ヒメドロムシ科
ケスジドロムシ属

種の特徴

写真は幼虫ですが、成虫は陸生でコガネムシに似た体形です。ヒメドロムシ科の国内最大種で成虫の全長は5mm内外。全体に茶褐色または黒色で頭は前へ突出せず触角は短いです。翅鞘の条溝は浅く、間室の毛は縦列をなして目立ちます。長い脚の先端は弓状に曲がります。幼虫は水生でイモムシ状です。

生育環境

河川の上流から下流にかけて分布し、流木や岸边付近の植物の根元に生息します。

国内や県内の分布

本州および九州に分布し、県内では全県の河川に分布するものと思われます。

市内の状況と絶滅危惧要因

市で毎年実施している河川水質（水生生物）の調査結果では、これまでに川西地区の2河川で幼虫が確認されています。個体数は少なく、河川改修や砂防工事、護岸整備、生活排水や農薬流入などにより生息地と個体数が消失します。

特記事項

本種は流木への依存性が強く、絶えず流木が供給し続けられる環境下に生息します。上流へのダム建設により流木の供給が止まると生息環境が悪化します。ケスジドロムシ属はアジアから4種のみが知られる小さな一群です。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ジャコウアゲハ 本土亜種【麝香鳳蝶、麝香揚羽】
*Atrophaneura alcinous alcinous*アゲハチョウ科
ジャコウアゲハ属

種の特徴

翅を広げた大きさが約 10cm のアゲハの仲間で、雄は黒色、雌は明るい褐色です。幼虫は色彩豊かで黒、茶、白、赤が混じり、全体に突起があります。幼虫はウマノズクサ類を食草とし、サナギを経て成虫は春から夏にかけて 2~3 回発生します。

生育環境

食草のウマノズクサ類が生育する河川の堤防法面や荒地などの明るい環境に生育します。

国内や県内の分布

秋田県以南から八重山諸島まで分布し、県内では分布域が局地的でしたが近年の分布域は拡大傾向にあります。

市内の状況と絶滅危惧要因

市内の河川の堤防で幼虫の食草となるウマノズクサ（市の準絶滅危惧）が生育している場所に生息していますが、ウマノズクサが無くなると生息できなくなります。また、2013 年から 2014 年にかけて市内で確認された外来種のホソオチョウの幼虫もウマノズクサ類を食草とするため、ジャコウアゲハと競合するおそれがあると言われています。

特記事項

和名の由来は雄の成虫が腹部から麝香のような臭い（成分フェニルアセトアルデヒド）を発するためです。またサナギ（蛹）は「お菊虫」とも呼ばれますが、これはサナギの姿が後ろ手に縛られた女性の姿に似ているため、怪談「皿屋敷」のお菊の亡霊に例えられたと言われています。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：準絶滅危惧 (NT)

アオハダトンボ

【青肌蜻蛉】
*Calopteryx japonica*カワトンボ科
アオハダトンボ属

種の特徴

全長は約 56~58mm、翅を広げた大きさは約 80mm、成熟した雄の翅と肢体は金属光沢のある黒緑色で翅脈は青藍色に輝きます。雌の肢体は雄と同色ですが、翅は淡い黒褐色で先端部前縁には白色の縁紋が目立ちます。

生育環境

平地や山間地の抽水植物や沈水植物が豊富な清流域に生息します。

国内や県内の分布

本州と九州に分布し、県内では全県に分布しますが生息または生息記録のある分布地は少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

2015 年に川西地区の公園内の池で雌を確認し、2018 年に千曲川で雌雄を確認していますが、個体数は非常に少なく生息地も少ないです。河川改修や水質の悪化による環境変化が主な絶滅危惧の要因となっています。

特記事項

雄の翅は光のあたり方によって色の輝きが異なって見えますが、これはタマムシと同じ構造色（多層膜干渉）によるものです。和名はよく似ているハグロトンボより体色の青い部分が広いことに由来しています。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：情報不足 (DD) 環境省：情報不足 (DD)

モンスズメバチ

【紋雀蜂】
*Vespa crabro*スズメバチ科
スズメバチ属

種の特徴

体長は女王バチが 28～30mm で働きバチは 21～28mm、体色は黒地に黄色または赤褐色の斑紋があります。腹部の黄色の斑紋(帯)が波形になることが特徴です。主にセミ類を狩り、他のスズメバチと違い夜間にも活動する習性があります。

生育環境

平地から低山の天然林や二次林に生息し、樹洞や天井裏、戸袋などの閉鎖的な場所に営巣します。

国内や県内の分布

北海道、本州、佐渡島、四国、九州に分布し、県内でも全県に分布しますが生息数は少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

2018年に川東地区の史跡公園で樹洞への営巣を確認し、2019年にも同公園で単独個体を確認していますが、個体数は少なく市内の生息地も少ないです。全国的に減少傾向にあり、森林伐採や農薬散布による影響と思われます。

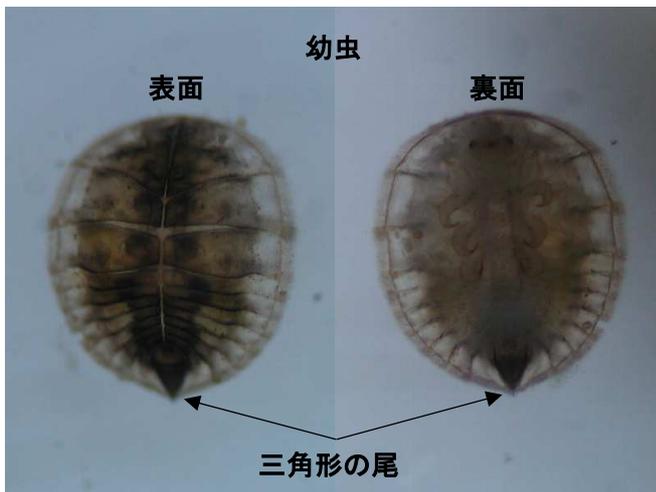
特記事項

18世紀にスウェーデンの生物学者リンネによりスズメバチ属として世界初の学名がつけられたのが本種とされています。夜間にも活動するため、カブトムシやクワガタの夜間採集の際には気をつける必要があります。

情報不足 (DD)

長野県：情報不足 (DD) 環境省：指定なし

マスダチビヒラタドROMシ

【樹田禿び扁泥虫】
*Malacopsephenoides japonicus*ヒラタドROMシ科
マスダドROMシ属

種の特徴

成虫は陸生で体長約 2mm、全体に薄い黄褐色を帯び、金属光沢を完全に欠いています。雄には枝分かれした櫛状の非常に長い触角があります。幼虫は水生で陣笠のように円形で扁平な体形をしており、三角形の尾があります。水中の石や貝類の表面に付着して生活しています。成虫は水面に飛び出た石の表面にいます。

生育環境

成虫は河川中流から下流に生息し、幼虫は清水性で礫質の河川に生息しています。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内では中信、南信、大北地域で生息が記録されています。

市内の状況と絶滅危惧要因

2017年に川西地区の平地を流れる用水路で幼虫 6 個体を確認しましたが、市内における生息地や生息数の情報は不明です。河川改修や上流域でのダム建設、森林伐採などが絶滅危惧の要因と考えられます。

特記事項

成虫も幼虫も非常に小さなヒラタドROMシで、成虫は灯火に集まりますが、幼虫は小さいのでなかなか見つけるのが難しいです。

留意種 (N)

長野県：情報不足 (DD) 環境省：指定なし

ベニモンマキバサシガメ

【紅紋牧場刺椿象、
紅紋牧場刺亀虫】
*Gorpis japonicus*マキバサシガメ科
ベニモンマキバサシガメ属

種の特徴

体長約 13mm、体、脚ともに細長く体色は全体に淡い黄緑色の地に紅色の斑紋があります。カラフルですが一見弱々しく見えます。前脚が他の脚より発達していて、これをカマキリの鎌のように使って獲物を捕らえ体液を吸います。

生育環境

山地のクルミやキリの樹上や葉裏に生息し、小さい昆虫類を捕らえて体液を吸います。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内では旧三郷村での確認記録があります。分布は広いですが局所的です。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブック作成時の現地調査で川西地区の山地で記録されています。長野県版レッドリスト (2015) では情報不足 (DD) に指定され、絶滅危惧の要因等は不明です。

特記事項

山地性のマキバサシガメの一種ですが比較的珍しい種とされています。本種が属するマキバサシガメ科はマキバサシガメ亜科とアシトマキバサシガメ亜科に分けられ、日本におけるマキバサシガメ科には 8 属 27 種ほどが知られています。

留意種 (N)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

ヘリグロチャバネセセリ

【縁黒茶翅弄蝶】
*Thymelicus sylvaticus sylvaticus*セセリチョウ科
スジグロチャバネセセリ属

種の特徴

翅を広げた大きさは 29mm 前後、翅の裏側は、地色が黄橙色で翅脈上の黒条が目立ちますが、表側の地色は黒褐色で橙色の斑紋が広がります。幼虫の食草はイネ科植物 (カモジグサ、クサヨシ、ヒメノガリヤスなど) やカヤツリグサ科植物 (テキリスゲなど) です。

生育環境

平地から山地、高原の明るい草地に生息します。

国内や県内の分布

北海道 (南西部)、本州、四国、九州に分布し、県内では全域に分布しますが北部と南部に一部空白地があります。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブック作成時の現地調査では市内の平地から低山地の各所で記録されていますが個体数は少ないです。長野県版レッドリスト (2015) では準絶滅危惧 (NT) に指定され、絶滅危惧の要因は自然遷移や草原の管理停止による幼虫の食草の減少が考えられます。

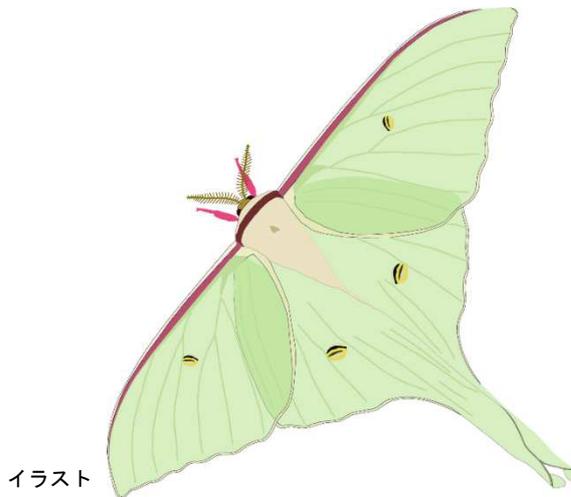
特記事項

セセリチョウの「セセリ」は「せせる」が変化したもので、せせるは、尖ったもので突き回すことを指し、セセリチョウ類が花の蜜を口吻を突き立てながら吸っている様子から名付けられました。

留意種 (N)

長野県：留意種 (N) 環境省：準絶滅危惧 (NT)

オナガミズアオ 本土亜種

【尾長水青】
*Actias gnoma gnoma*ヤマムギガ科
ミズアオガ属

イラスト

種の特徴

大型の蛾類で翅を広げた大きさは 80~100mm、翅は春型で黄緑色、夏型は青色を帯びた白色です。前翅、後翅ともに眼状紋があり、後翅には尾状突起があります。近似種のオオミズアオとは触角の色(本種は淡い緑褐色)で区別できます。

生育環境

幼虫はハンノキ類を食樹とするため、平地から山地のハンノキ類が生育する河畔林や湿地に多く生息します。

国内や県内の分布

北海道、本州、四国、九州に分布し、県内でも全県の同様の環境に局所的に生息すると思われます。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブック作成時の現地調査では川西地区の標高約 800m の山地で確認されました。長野県版レッドリスト (2015) では留意種 (N)、環境省レッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) に指定され、河川開発などによるハンノキ林の消失が絶滅危惧の主要因で、特に平地では生息環境が悪化していると言われています。

特記事項

全体に優雅さを感じさせる青みを帯びた大型の蛾類です。地面に止まると後翅を閉じて頭部を下げた状態になります。

留意種 (N)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

クロカタビロオサムシ

【黒肩広歩行虫、黒肩広箴虫】
*Calosoma maximowiczi*オサムシ科
カタビロオサムシ属

種の特徴

体長は 22~31mm、全身はほぼ黒色で光沢がありますが、やや金緑色を帯びます。類似種のアオカタビロオサムシに似ていますが、より大型で金属光沢が弱いです。詳しい生態は不明ですが、樹上性でブナ林に生息する蛾類のブナアオシャチホコの幼虫を好んで食べます。

生育環境

良好な里山の雑木林にも生息しますが、ブナなどの山地帯の落葉広葉樹林に多く生息します。

国内や県内の分布

南西諸島を除く国内に分布し、県内では中信以北での確認記録があります。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブック作成時の現地調査では川東地区の山地の尾根筋で確認されました。長野県版レッドリスト (2015) では準絶滅危惧 (NT) に指定され、ブナ林の伐採や里山雑木林の管理放棄が絶滅危惧の要因です。

特記事項

オサムシの仲間は後翅が退化して飛ぶことができませんが、本種は後翅が発達しているため飛翔できます。ブナアオシャチホコが大発生するとクロカタビロオサムシも大発生して幼虫や蛹を捕食します。

留意種 (N)

長野県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：指定なし

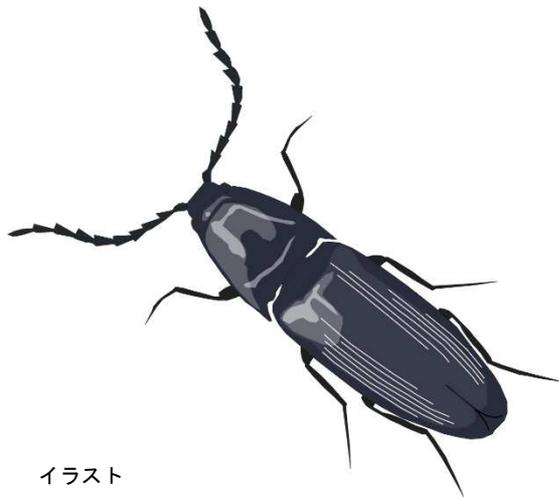
クロニセコメツキ

別名クロアシブトコメツキ

【黒偽米蝨虫】

Podeonius mus

コメツキムシ科

Podeonius 属

イラスト

種の特徴

体長 7.0~8.5mm、体形は細長い紡錘形^{ぼうすいけい}でやや厚く、体色は黒色で背面の毛も黒く光沢があり、触角^{しよつかく}の第3節目から強い鋸歯状^{きよしじょう}となります。主に花に訪れますが、電灯の明かりには集まらなると言われています。

生育環境

山地帯の広葉樹の二次林に生息します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内では旧望月町、旧檜川村、大滝村、小谷村での確認記録があります。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブック作成時の現地調査では川西地区の山地で確認されました。長野県版レッドリスト (2015) では準絶滅危惧 (NT) に指定され、森林伐採や道路工事、ダム建設が絶滅危惧の要因です。

特記事項

多くのコメツキムシは仰向けにするとパチンという音とともに頭と胸を振り上げて飛び跳ね、お腹を下にした状態に戻ることができます。この動作がお米を突く音に似ていることが和名 (コメツキムシ) の由来です。

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

長野県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)

カタママイマイ

【堅豆蝸牛】

Lepidopisum conospira

ナンバンマイマイ科

カタママイマイ属



種の特徴

殻長^{かくちよう} 5~6mm、殻径^{かくけい} 6~7mm 程度の 5 層の巻き貝。螺塔^{らとう}が高く、各層は膨れ^{ふくれ}、体層^{たいそう}は大きいです。殻の色は淡褐色^{たんかかしよく}で、殻口唇縁^{かくこうしんべんじよう}は肥厚^{ひこう}し、白色^{しろ}で反転^{はんてん}します。殻表^{かくひよう}には鱗片状^{りんぺんじよう}の突起^{とつき}があります。触覚^{しよつかく}は淡灰色^{たんかいしよく}で軟体部^{なんたいぶ}は淡褐色^{たんかかしよく}です。

生育環境

耕作地周辺や道端の土手、河川敷や海岸、広葉樹林などで確認されています。

国内や県内の分布

本州、四国、九州で確認されていますが既知の産地は少ないと言われています。県内では東信、中信、南信の数箇所のみで確認されています。

市内の状況と絶滅危惧要因

2017年に市北部の耕作地で数個体が確認されました。なお、この生息地は後に開発されましたが、2017年に実施した開発前の保護対策 (移殖) により 2019年には移殖先での生存が確認されています。生息地の開発や除草剤散布による生息環境の悪化が絶滅危惧の要因です。

特記事項

本種は生息が確認されても数年のうちにその個体群が消滅^{せいかつかん}してしまうという不思議な生活環^{せいかつかん}をもって、生態的な知見などの詳細はまったく不明とされています。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：留意種 (N) 環境省：準絶滅危惧 (NT)

ヒメハリマキビ

【姫播磨黍貝】
*Parakaliella pagoduloides*ベッコウマイマイ科
ハリマキビ属

種の特徴

殻長^{かくちよう}2mm、殻径^{かくけい}2.5mm程度、螺層^{らそう}5層の微小の巻き貝です。殻は薄く淡い黄褐色^{おうかつしよく}で螺塔^{らとう}が高く、殻頂^{かくちよう}の丸い円錐形^{えんすいけい}です。体層^{たいそう}の周縁^{しゅうえん}は円く、殻表^{かくひよう}は絹状^{きぬじよう}に光沢^{あなかつしよく}があります。軟体部^{なんたいぶ}は暗褐色^{あんかつしよく}で頭や触覚^{しよく}は黒色です。

生育環境

落葉広葉樹林^{らくえつこうえつじゆりん}の林床^{りんしょう}の落ち葉^{おちば}の中^{なか}で見つかることが多いです。

国内や県内の分布

主に本州^{ほんしゅう}から四国^{しこく}に分布^{ぶんぷ}するとされ、九州^{きゅうしゅう}からも少数^{すうすう}の報告^{ほうこく}があります。県内^{けんない}では全県^{ぜんけん}に広く分布^{ぶんぷ}していますが、一箇所^{ひとところ}での生息数^{せいしきすう}は少ないようです。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市^{ちまき}版レッドデータブック^{ばん}作成時^{さくせい}の現地調査^{げんちしやうさ}では市西部^{しせいぶ}の標高^{ひょうこう}1000m付近^{ひきん}で生息^{せいしき}を確認^{かくにん}しました。森林伐採^{しんりんばさい}や気候変動^{きこうへんどう}に伴う森林環境^{しんりんかんげい}の荒廃^{あらかた}により、個体^{こたい}の消滅^{しょうめつ}や減少^{げんじゆ}を引き起こすおそれがあります。

特記事項

近似種^{きんじしゆ}のハリマキビ^{はりまきび}との区別^{くべつ}が難しいですが、ハリマキビ^{はりまきび}の若い貝^{わかい}の体層周縁^{たいそうしゅうえん}には角^{かく}があり、ヒメハリマキビ^{ひめはりまきび}の体層周縁^{たいそうしゅうえん}は円く、より小さい殻^{から}であることで区別^{くべつ}が可能です。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

長野県：指定なし 環境省：指定なし

ヒダリマキマイマイ

【左巻蝸牛】
*Euhadra quaesita quaesita*ナンバンマイマイ科
マイマイ属

種の特徴

殻長^{かくちよう}21~27mm、殻径^{かくけい}37~45mm程度の左巻き^{さまき}の大型^{おほい}マイマイ類^{まいまいるい}で、殻の色^{からいろ}は黄褐色^{おうかつしよく}から褐色^{かつしよく}、殻表^{かくひよう}は比較的滑らか^{ひかくてきつな}で、色帯^{しきたい}が目立ちます。軟体部^{なんたいぶ}の背面^{へいめん}は黒^{くろ}や黄褐色^{おうかつしよく}の斑点^{はんてん}が点在^{てんてん}しますが、生息環境^{せいしきかんげい}により変異^{へんい}があります。

生育環境

森林^{しんりん}や草原^{そうげん}など比較的幅広い環境^{かんげい}に生息^{せいしき}し、半樹上^{はんじゆじやう}性^{せい}で湿った場所^{しづめたばしょ}を好みます。

国内や県内の分布

本州^{ほんしゅう}の中部地方^{ちゅうぶちほう}や関東以北^{くわんといほく}と周辺の離島^{りしま}に分布^{ぶんぷ}し、県内^{けんない}では北信地方^{ほくしんちほう}を中心に低地^{ていち}から標高^{ひょうこう}2500mの高地^{たかち}まで分布^{ぶんぷ}します。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市^{ちまき}版レッドデータブック^{ばん}作成時^{さくせい}の現地調査^{げんちしやうさ}では川西地区^{かわにしちく}や川東地区^{かわとうちく}の6地点^{6ちてん}で確認^{かくにん}し、2020年^{2020ねん}には川西地区^{かわにしちく}で小河川^{せがわ}のコンクリート護岸^{ごあん}に付着^{つじやく}した個体^{こたい}を確認^{かくにん}しました。大型^{おほい}のマイマイ類^{まいまいるい}は全国^{ぜんこく}で急激^{きゅうげき}に減少^{げんじゆ}していると言われ、生息地^{せいしきち}の開発^{かいはい}や気候変動^{きこうへんどう}による湿润環境^{しじつかんげい}の減少^{げんじゆ}が絶滅危惧^{ぜつめつきふ}の要因^{よきん}として考えられます。

特記事項

左巻き^{さまき}とは、貝^{かい}を上から見たとき^{かみ}に中心^{ちゆうしん}から左^{ひだり}に向かって巻^まいていることを意味^{いみ}します。左巻き^{さまき}の巻き貝^{まきかい}は珍しく、学名^{がくめい}の *quaesita* には「稀な」という意味^{いみ}があります。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：留意種 (N) 環境省：準絶滅危惧 (NT)

ケシガイ

【芥子貝】
*Carychium pessimum*ケシガイ科
ケシガイ属

種の特徴

殻高2.2mm、殻径0.8mm 程度の非常に微小な巻き貝で、近似種のニホンケシガイより体形が細長く、若い個体の成長脈は明瞭で、殻口の歯状突起はニホンケシガイは明瞭ですが、ケシガイの突起ははっきりしません。

生育環境

落葉広葉樹林の林床の落葉中に多く生息しますが、スギやカラマツの落葉中にも生息します。

国内や県内の分布

本州（関東以西）、四国、九州に分布し、県内では全県に広く分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブック作成時の現地調査では川西地区のため池周辺でのみ確認しています。生息地の森林伐採や林道の開設などにより生息環境が容易に悪化すると考えられます。

特記事項

ケシガイのケシは、植物のケシ（芥子）の意味で、芥子粒ほどに小さい貝という意味です。ケシガイについては分類学的再検討が行われており、長野県のケシガイは今後、別種とされる可能性があります。

準絶滅危惧 (NT)

長野県：留意種 (N) 環境省：情報不足 (DD)

オオウエキビ

【大上黍貝】
*Trochochlamys fraterna*ベッコウマイマイ科
カサキビガイ属

種の特徴

殻長3mm、殻径2mm 程度、螺層6層の全体に丸みのある円錐形の微小の巻き貝です。殻の色は黄褐色で、体層に強い周縁角があり、各螺層は膨らみ縫合は深く、半円形に開く殻口が特徴です。軟体部は淡灰色から黄褐色です。

生育環境

山麓から山地の針広混交林の湿潤な落葉中に生息します。

国内や県内の分布

本州、四国、九州に分布し、県内では広く分布しますが東信からの確認は少ないです。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブック作成時の現地調査では川西地区や川東地区の4地点で確認しています。生息地の森林伐採や林道の開設などによる生息環境の改変が主な絶滅危惧の要因です。

特記事項

和名のオオウエキは、博物学者である大上宇一氏に献名されたものです。

ヒラマキミズマイマイ

【平巻水蝸牛】
*Gyraulus chinensis*ヒラマキガイ科
ヒラマキガイ属

種の特徴

淡水性の貝類で、殻高^{かくこう}2mm、殻径^{かくけい}6mm 前後、螺層^{らそう}は4~5層、扁平な円盤形^{へんぺい えんぱんがた}で殻は半透明で薄く、光沢のある黄褐色です。体層^{たいそう}の周縁^{しゅうえん}には弱い角があり、その部分^{ぶぶん}にわずかに殻皮毛^{かくひもう}を持つ個体もあります。軟体部^{なんたいぶ}は暗褐色^{あんかつしよく}です。

生育環境

池沼や水田などの水草や石に付着しています。時に河川にも生息しています。

国内や県内の分布

北海道から九州に分布し、県内でも南信を中心に全県に広く分布しています。

市内の状況と絶滅危惧要因

千曲市版レッドデータブック作成時の現地調査では川西地区の池沼や水田で確認し、その後のモニタリングでは2016年と2019年に、平地を流れるやや汚濁の進んだ河川の川底からも比較的多くの個体を確認しました。池沼の改修や河川工事、水田の圃場整備や耕作放棄などにより生息環境が悪化すると考えられます。

特記事項

2016年のモニタリングでは平地を流れる温泉排水の流入した河川で、本種の他にインドや東南アジア原産の外来種であるインドヒラマキガイが多数確認されました。観賞魚の水槽内に付着した藻類を除去するために流通した経緯があり、繁殖力も旺盛なため、水槽で繁殖した個体を河川に放流したため野生化しているものと考えられます。

